

CLIPPEDIMAGE= JP363039294A

PAT-NO: JP363039294A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 63039294 A

TITLE: VIDEO PROJECTING DEVICE

PUBN-DATE: February 19, 1988

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

NAGASHIMA, YOSHITAKE

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

CANON INC

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP61183027

APPL-DATE: August 4, 1986

INT-CL (IPC): H04N009/31

ABSTRACT:

PURPOSE: To miniaturize a device and to reduce a work for maintenance by inversely using a color separation optical system such as the one which is used for tri-color color separation for a usual television camera.

CONSTITUTION: A luminous flux emitted from a white light source 23 is projected in a collimation lens 22 to be a parallel luminous flux and goes towards the light division face of polarization BS 21, where S component are reflected, and becomes a straight polarizing light. The straight polarizing light is projected in the projection face 11a of a color separation prism 11 and separated from a color component light to be projected in the respective liquid crystal display elements 12~14, where it is

space-modulated according to a video signal, and then reflected by reflection mirrors 15∼17 so as to pass through the liquid crystal display elements 12∼14 from the opposite direction again. And since the liquid crystal display elements have the quality of birefringence, the straight polarizing light face of the luminous flux is made to rotate to emit in propotion to the video signal after a round trip in the elements. The strainght polarizing light of the respective components are composed during retrograding through an optical path and emitted from the projection face 11a of the color separation optical system 11, and meanwhile the components obtained by rotating the polarizing face by 90° against a projected light passes through the polarization BS 21 to be projected on a screen 25 by a projection lens 24.

COPYRIGHT: (C)1988,JPO&Japio

⑫ 公開特許公報(A)

昭63-39294

⑬ Int. Cl.⁴

H 04 N 9/31

識別記号

庁内整理番号

7060-5C

⑭ 公開 昭和63年(1988)2月19日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 ビデオ・プロジェクション装置

⑯ 特 願 昭61-183027

⑰ 出 願 昭61(1986)8月4日

⑱ 発 明 者 長 島 良 武 神奈川県川崎市高津区下野毛770番地 キヤノン株式会社

玉川事業所内

⑲ 出 願 人 キヤノン株式会社 東京都大田区下丸子3丁目30番2号

⑳ 代 理 人 弁理士 丸 島 儀一

明 細 書

1. 発明の名称

ビデオ・プロジェクション装置

2. 特許請求の範囲

(1) ダイクロイック膜により各色成分光に分解する色分解光学系の各出射部相当側に映像信号で駆動される液晶表示素子と反射体とを夫々順置し、前記色分解光学系の入射部相当側に入射光を所定の偏光状態にすると共に光路を分割する光路分割手段を配置し、更に前記光路分割手段で分割された光路の一方に照明手段、他方に投影レンズを配置して、前記照明手段からの光が前記光路分割手段で偏光された後、前記色分解光学系を介して前記各液晶表示素子と反射体に至り、反射体から光路を逆行した各色成分光は合成されて前記投影レンズから投影されることを特徴とするビデオ・プロジェクション装置。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、ビデオ画像をスクリーン上に投影す

るためのプロジェクション装置に関し、殊に光束の空間変調に2次元液晶表示素子を使用した装置に関する。

〔従来の技術〕

最近、プロジェクション型のテレビ受像器が急速に普及してきており、公共施設のみならず家庭でも見られる様になってきている。この種の装置は、赤(R) 緑(G) 青(B)の各色成分光に対応する3本の高輝度陰極線管に映出された色成分画像を投影レンズでスクリーンに投影してそこで合成し、元の色彩の画像を表示する様にしている。第2図はビデオ・プロジェクション装置の概要を示している。1, 2, 3は夫々R, G, Bに対応する陰極線管で、R, G, Bの映像信号が各々入力されるR, G, Bのドライブ回路4, 5, 6により駆動される。7, 8, 9は投影レンズで、陰極線管7, 8, 9の前方にスクリーン10にビントを合わせて夫々配置される。尚、本図では投影レンズを単レンズで示したが、実際には諸収差補正のために複数枚のレンズから構成されるのが普通である。

第2図からでも予想される様にプロジェクション装置は装置自体が大型となるのが大きな欠点であり、また高価になり易い。更に投影レンズとスクリーンの距離を変えると、各投影レンズの光軸のコンバージェンス調整あるいは陰極線管像の幾何学的歪みの補正を行うなどメンテナンスの手間を要する欠点があった。

〔発明が解決しようとしている問題点〕

本発明は上記欠点を除去し、特に小型でメンテナンス作業を軽減した装置の提供を目的とする。

そしてこの目的を達成するために、通常テレビカメラの3色色分解に使われる様な色分解光学系を逆に使用し、色分解光学系の各出射部相当側に映像信号で駆動される2次元液晶表示素子と反射体とを夫々順置し、前記色分解光学系の入射部相当側に入射光を所定の偏光状態にすると共に光路を分割する光路分割手段を配置し、更に前記光路分割手段で分割された光路の一方に照明手段、他方に投影レンズを配置するものである。

イツクミラーを組合せて構成しても良い。

12, 13, 14は順に青色成分の映像、赤色成分の映像、緑色成分の映像を表示する2次元液晶素子である。素子自体の構成は周知であるから説明を省く。これを液晶表示素子12, 13, 14は色分解光学系の出射面11b, 11c, 11dに接着されている。15, 16, 17は誘電体の反射鏡で液晶表示素子12, 13, 14の裏面に設けられている。

18, 19, 20は液晶表示素子の駆動回路で、例えばNTSC信号からカラーデコードされたB, R, Gの映像信号が夫々入力され、この信号に応じて各液晶表示素子12, 13, 14を駆動する。

21は偏光ビーム・スプリッター（以下、偏光BSと云う）で色分解光学系11の設定光軸O上に配置する。22はコリメーションレンズで、偏光BS21で分岐された光軸上に配置し、更にコリメーションレンズのほぼ焦点上にハロゲンランプの様な白色光源23を配置する。24は投影レンズで、偏光BS21を経由した光軸にその光軸を一致させて配置する。25はスクリーンで、スクリーン25と各

〔実施例〕

以下、第1図に従って本発明の一実施例を説明する。まず11は3色色分解光学系で、第1プリズム11A、第2プリズム11B、第3プリズム11Cを具え、11aがいわゆる入射面、11b, 11c, 11dが各色成分光の出射面に相当する。第1プリズムAの第2面11eには青を反射しそれにより長波長域を透過させるダイクロイック干渉薄膜が蒸着されている。第1プリズム11Aと第2プリズム11Bの間には空隙が置かれ、又第2プリズム11Bと第3プリズム11Cの間の11f面には赤反射緑透過のダイクロイック干渉薄膜が蒸着されている。従って、入射面11aに白色光が入射したと仮定すると、面11eで青色光は反射され、面11aで内面全反射して出射11bへ向い、面11eを透過した光の内、面11fで反射した赤色光は空隙に接する面で内面反射して出射面11cへ向い、面11fを透過した緑色光は出射面11dへ向う。尚、3色色分解光学系はダイクロイック膜を蒸着したプリズム・ブロックを組合せて構成する他に、周知の様に板状ダイクロ

液晶表示素子12, 13, 14は投影レンズ24に関して共役となる様に調整される。

以上の構成で、白色光源23を発した光束はコリメーションレンズ22へ入射して平行光束となり、偏光BS21の光分割面へ向いS成分が反射し、直線偏光々となる。直線偏光々は色分解プリズム11の入射面11aへ入射し、既に説明した通り色成分光に分解されて各液晶表示素子12, 13, 14へ入射し、そこで映像信号に応じて空間変調され、反射鏡15, 16, 17で反射して再び液晶表示素子12, 13, 14を逆方向から通過する。ここで液晶表示素子は複屈折性を有するので、光束は素子内の往復後、直線偏光面が映像信号に比例して回転して出射し、これら各色成分の直線偏光光が光路を逆行する内で合成されて色分解光学系11の入射面11aから射出し、偏光面が入射光に対し90°回転した成分が今度は偏光BS21を通過し、投影レンズ24でスクリーン25へ投影される。

〔効果〕

以上述べた本発明によれば、各々陰極線管と投

影レンズを配置する場合に比較して遙かに小型で軽量となる効果があり、また各色成分光は合成された後、投影される構成を採用しているので、コンバージョンのミスが発生することなく、スクリーンまでの距離を変えた場合でも投影レンズのフォーカシングを取り直すだけで済むなど操作が簡便となる。また映像表示器として液晶を使っているので、陰極線管の様な幾何歪がなくなる効果もある。

更に偏光BSを使って照明光路と投光光路を分割し、また光を色分解光学系内を往復させて色の分解、合成を行っているので、光源の光の利用効率が高まる利点がある。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の実施例を示す光学断面図、第2図は従来例を示す平面図。

図中、

- 11は色分解光学系、
- 12・13・14は液晶表示素子、
- 15・16・17は反射鏡、
- 21は偏光BS、

23は白色光源、

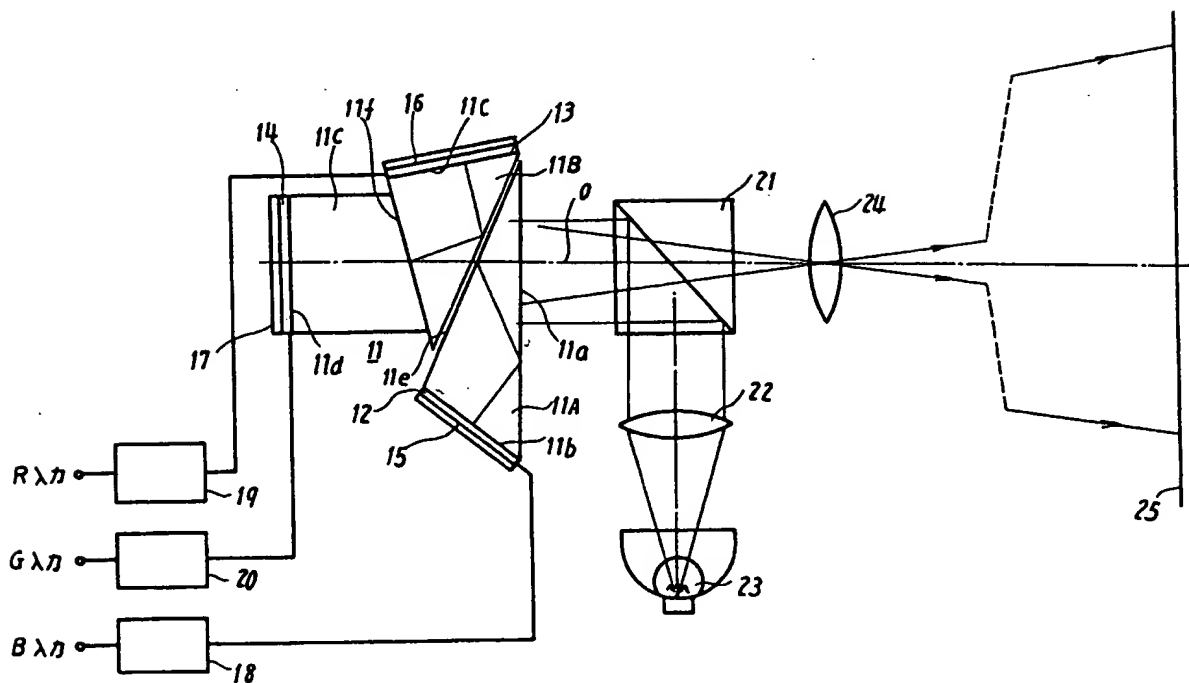
24は投影レンズである。

出願人 キヤノン株式会社

代理人 丸 島 備 一



第1図



第 2 図

